

令和3年度 地域ケア推進実務者連絡協議会 議事要約

日時：令和4年3月18日（金）

午後2時～3時30分

場所：枚方市医師会館 大会議室

発言者	内 容
事務局司会	それでは定刻となりましたので、令和3年度地域ケア推進実務者連絡協議会を開催致します。 本日はご多用のなか、本連絡協議会にご出席くださいます様誠にありがとうございます。 まず、本日のスケジュールについて説明させていただきます。 お手元の次第に沿いまして、本日の案件は、1 点目は第1層協議体の報告について、2 点目は認知症初期集中支援チーム検討部会の報告について、3 点目に在宅医療・介護連携の推進について、4 点目は参加者・団体からの報告・提案・要望事項等です。5 点目には、各機関におけるACP（アドバンス・ケア・プランニング）の取り組みについて事前聞き取り用紙をもとに伝達させていただきます。
事務局司会	それでは、早速ですが、案件1にうつりたいと思います。枚方市健康増進・介護予防担当より、第1層協議体の報告をお願いします。
枚方市健康増進・介護予防担当	案件1：第1層協議体の報告について 配布資料：資料①－1 第1層協議体（第1回目）議事要約 資料①－2 第1層協議体（第1回目）次第・配付資料 第1層協議体の議事要約については、資料①－1を後ほどご確認ください。 資料①－2をご覧ください。1点目の案件「各所属団体の活動紹介について」は、令和2年度にコロナ禍で対面での開催が出来なかった間に委員の改選があったため、改めて構成団体について確認する目的で各団体の活動紹介をさせていただきました。2点目の案件「介護予防・生活支援事業等の実績報告について」は、配布資料でご確認ください。実績が極端に落ち込んでいる事業もありますが、新型コロナウイルス感染症の影響によるものです。その中でも各校区における「元気づくり・地域づくりプロジェクト」について、可能な限り活動いただいた実績が、資料15ページ以降に記載されています。「元気づくり・地域づくりプロジェクト」は地域課題の抽出とその解決が目的です。その地域課題をまとめた表については、後ほどご確認ください。この地域課題の「今後の方向性」が「第1層協議体へ提案」とあったものの中で、「コロナ禍でいかに介護予防活動を行うか」を取り上げ、「ひらかた元気くらわんか体操」をどのようにして取り組んでいくかについて意見交換を行いました。3点目の案件「介護

	予防事業に係る成果連動型民間委託契約方式（PFS）事業者選定審査会委員の選出について」です。介護予防事業の委託について、競争入札ではなく成果連動型民間委託契約方式（PFS）を採用し、本市でも事業を行うこととなりました。事業者選定のための附属機関の委員について、現場をよくご存知の第 1 層協議体の構成団体から推薦を依頼したいという内容をお話させていただき、枚方市介護支援専門員連絡協議会から推薦いただくことになりました。 第 1 層協議体の報告については以上です。
事務局司会	この報告について、ご意見等はございますか。 ないようですので、続きまして、枚方市健康福祉総合相談担当より、案件 2. 認知症初期集中支援チーム検討部会の報告をさせていただきます。
健康福祉総合相談担当	案件 2：認知症初期集中支援チーム検討部会の報告について 認知症初期集中支援チーム検討部会の報告 配付資料：資料②－1 認知症初期集中支援チーム検討部会議事要約 資料②－2 認知症初期集中支援チーム検討部会次第・配付資料 認知症初期集中支援チーム検討部会について、ご報告いたします 認知症初期段階における包括的・集中的支援、早期対応に向けた支援体制構築を目的に設置しており、市内医療機関の東香里病院・松谷病院に業務委託しています。検討部会では、活動状況報告や協議を行い、必要時次年度の事業に反映しております。 今回のご報告では、主に、案件 1 発動状況・活動報告と案件 4 認知症施策取り組み実績及び次年度の取り組みについて、一部を抜粋しながらお伝えいたします。案件 2 センター向け研修、案件 3 意見交換会につきましては、お手元の議事要約・配付資料を後ほどご確認ください。 それでは、お手元の資料②－2 をご覧ください。医療機関チーム員より、依頼目的や訪問時の本人・家族状況、チーム員会議で検討した上での支援内容と経過、今後の課題等を報告しました。出席者からは、チーム支援終了後のフォロー体制や家族状況についてご質問・ご意見があり、家族を含む支援体制整備等の重要性について再認識しました。また、今後の発動件数増加、実績の積み重ねに向け、外部機関へのより一層の周知、情報共有できるツール、かかりつけ医の積極的な介入の必要性等について話し合いました。 続きまして、お手元の資料「取り組み実績及び次年度の取り組みについて」をご覧ください。資料にありますように、今年度は、初期集中支援チーム事業の推進を認知症施策の主な取り組みの 1 つとして挙げておりましたので、その活動内容をご報告しました。 また、今後の方向性について、案件 1 発動状況・活動報告での意見も受け、外部機関への周知が必要であると話し合いました。次年度は、特に、枚方市医師会との連携を図り、協働して研修を開催する等を検討、実施していく方針となりました。

	出席者の枚方市医師会より、地域ケア実務者連絡協議会等にて協議し、様々な機関と連携を進めていきたい、一般市民向けにも認知症と ACP の一体的な周知と効果測定を進めていけたらとよいと考えている、という意見をいただきました。 支援のアプローチが難しい困難事例も多くありますが、初期段階における包括的・集中的支援、早期対応に向けた支援体制構築という課題解決のために、今後取り組みを進めてまいります。 認知症初期集中支援チーム検討部会については以上です。
事務局司会	この報告について、ご意見等はございますか。 認知症初期集中支援チーム検討部会にご参加いただいた枚方市医師会はいかがでしょう？
枚方市医師会	枚方市は発動件数が少ないことが課題です。年間 50 件程度の発動がある市町村もあります。「認知症初期集中支援チーム」について、「初期」とあるが中～重度の方についても積極的に発動の対象としていくべきではないでしょうか。 地域包括支援センターや認知症初期集中支援チーム員が、受診勧奨や家族の負担軽減等の支援を行っていますが、そこに医師の姿が見えないと感じています。開業医・認知症サポート医・地域包括支援センター間の連携体制構築について今後も取り組んでいきます。
事務局司会	それでは、続きまして、案件3 資料③-1 在宅医療・介護連携の推進について、枚方市医師会、在宅医療・介護連携支援コーディネーター、枚方市健康福祉総合相談担当より、報告させていただきます。
枚方市医師会、在宅医療・介護連携支援コーディネーター、健康福祉総合相談担当	案件3：在宅医療・介護連携の推進について 配付資料：資料③-1 在宅医療・介護連携の推進について 資料③-1 をご覧ください。 はじめに、ひらかた高齢者保健福祉計画 21（第8期）に掲げている、枚方市の地域包括ケアシステム構築の取り組みについてご説明します。「地域包括ケアシステム」は、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じた自立した日常生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制です。本市では、いわゆる「団塊の世代」がすべて 75 歳以上となる 2025 年（令和 7 年）をめどに地域包括ケアシステムの実現を目指し、これまで築き上げたシステムの深化・推進に努めているところです。 資料の 3 ページ目は、枚方市の取り組みのイメージです。地域ケア推進実務者協議会では、在宅医療・介護連携の推進を目的として開催しており、次年度以降の施策立案・企画につなげております。在宅医療・介護連携推進事業・認

知症施策を連携して進め、また、各会議体の連携を図ることで、在宅医療と介護サービスを一体的に進める体制構築を進めているところです。

それではこれより、在宅医療・介護連携推進について、事業実施状況についてご報告します。

今年度は、地域の医療・介護の資源の把握、医療・介護関係者の情報共有の支援として、医療・介護資源集作成・配布を行いました。往診可能な医療機関等従来の情報に加え、医科・病院には認知症項目を、訪問介護事業所には医療ケア提供状況項目等を追加しております。後ほどお手元の冊子をご参照ください。

続きまして、在宅医療・介護連携に関する相談支援 電話相談窓口についてご報告します。今年度は事業の拡充を図り、身近な圏域内での連携強化・継続を目的に、市内訪問看護ステーション管理者が相談に対応しました。また、医師会コーディネーター・バックアップ医師によるフォロー体制を構築をしました。8 ページに、電話相談窓口の実績 17 件の内訳があります。相談件数は昨年度より増加傾向にあります。訪問看護ステーション連絡会の機関等で実施状況を把握し、助言内容や方針を振り返るとともに、今後も関係機関の皆様への周知を進めてまいります。

次に、課題抽出と対応策の検討として取り組んだ、認知症支援体制構築についてご報告します。9 ページにあるように、体制構築には、かかりつけ医、サポート医、専門医療機関それぞれが機能を担い、有機的に連携する必要があります。今年度は、現状把握として、医師会員向けに認知症診療等に関するアンケートを、認知症サポート医向けに活動状況等に関するアンケートを実施しました。10 ページは、認知症が疑われる患者を診察された際の相談（紹介）先、11 ページは、医師会員向けの認知症サポート医に関するアンケート結果です。アンケート結果もふまえ、認知症疾患医療センター東香里病院研修にてシンポジウムを開催を計画しています。東香里病院・医師会とで協働し、かかりつけ医、サポート医、疾患医療センターの役割・機能周知、支援体制の現状把握、各機関の役割・機能整理を目的としています。

次に、認知症啓発についてご報告します。市公式ユーチューブチャンネル、市ホームページに、令和 2 年度に 3 本、令和 3 年度に 1 本の認知症啓発動画をアップしました。認知症が心配なもの忘れは 33 万回、高齢ドライバーの認知機能検査は 1 万 6 千回超えの再生回数となっており、大変ご好評をいただいております。

13 ページは、認知症の普及啓発と連携体制構築に関する令和 4 年度の取り組みの予定です。

続きまして、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）普及啓発に向けた取り組みについてご報告します（資料 15 ページ～17 ページ）。

18 ページは、医療・介護資源集アンケートより抜粋した調査結果です。19 ページは令和 3 年度枚方市医療・介護資源集アンケートと同時実施したアンケ

	ートで、直近一年間の在宅看取り件数を聞き取りしています。今後も、医療・介護資源集作成時の機会等で調査し、市内医療機関の看取りに関する現状把握を進めてまいります。 20 ページは、ACP の普及啓等、意思決定支援に関する令和 4 年度の取り組みの予定です。人生の最終段階における医療・介護等への理解を深めてもらえるよう、作成した冊子等を活用したり、市民向け講演会を開催し、市民への普及啓発を図ります。また、保健・医療・介護・福祉等の関係機関が連携し、ACP に関する支援を提供できる体制整備が必要と考えており、知識・支援技術の習得・向上として、関係機関向け研修会の開催を予定しております。そのほか、関係機関から現状を聞き取り、連携面の課題や不足する資源等を抽出する取り組みも検討しています。関係機関の皆様におかれましても、引き続き、周知・啓発にご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。
事務局司会	続きまして、委託事業以外につきまして、枚方市保健所保健予防課より報告させていただきます。
保健予防課	資料 22 ページにあります枚方市難病対策分野 難病ネットワーク部会についてですが、枚方市保健所保健予防課・枚方市医師会・関西医科大学付属病院難病センターの 3 団体で企画を行い、11 の構成団体と共に運営を行っております。令和 3 年 12 月 10 日に、医師や当事者の方を講師にお招きし、難病患者者のコミュニケーション支援の研修を開催しました。
事務局司会	この報告について、ご質問等はございますか。
枚方市医師会	私もコミュニケーション支援の研修に参加しました。ほとんど手足が動かない当事者の方が講演をされていましたが、パソコンやソフトを駆使して様々なことを行っておられました。また、まばたきで意思を知らせる機器の展示もありました。看護学生の参加があり興味を持っている姿を見て、医学教育の進歩を実感し、これからの未来に期待したいと感じたところです。神経難病に負けずに立ち向かっている姿を見て、考えさせられることが多かったので、ぜひ継続して実施いただければと思います。
保健予防課	引き続き、枚方市医師会・関西医科大学付属病院難病センターと共に、ネットワークを広げていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。
事務局司会	ご希望の方は、前に掲示している ACP のポスター、エンディングノート、人生会議まるわかりガイドを配布できますので、枚方市医師会または枚方市健康福祉総合相談担当にご連絡ください。 続きまして、地域包括支援センター主任ケアマネ部会より、案件 3 資料③-2 多職種連携研究会実施内容一覧表・課題整理一覧表について、報告させていただきます。

地域包括支援センター主任ケアマネ部会	案件3 在宅医療・介護連携の推進について 配付資料：資料③-2多職種連携研究会実施内容一覧表・課題整理一覧表 令和3年度多職種連携研究会について、地域包括支援センター主任ケアマネ部会より報告いたします。 多職種連携研究会は、地域の実情に即した課題の抽出・振り返りを目的として、平成28年度より、地域包括支援センターが事務局となり日常生活圏域ごとに開催しております。 お手元の資料③-2多職種連携研究会実施内容一覧表・課題整理一覧表をご覧ください。 「多職種連携研究会実施内容一覧表」は、各包括研究会の開催意図や成果、参加人数を一覧にしたものです。研究会では、様々なテーマを介し医療と介護の連携を図ることを目的としており、今年度は今般の状況を受け、コロナ禍の課題をテーマとした研究会を数多く開催しています。 「課題整理一覧表」は、運営にあたって課題、抽出された地域・連携の課題をまとめております。 運営上の課題では、主にコロナ禍での研究会運営の難しさ、試行錯誤して進めてきた経緯・今後の展望を挙げています。 対面開催では、人数制限やグループワークの運営方法等、対策が必要となります。また、オンライン開催では、顔の見える関係づくりといった面では課題が残るため、Web会議ツール機能活用やハイブリッド形式等、開催方法の工夫を検討する必要があります。今後は、オンライン環境が整っていない事業所へのサポート等も含め、包括・関係機関共に、経験を重ねていきたいと考えています。なお、開催方法等の工夫は、添付している医師会員様向けの活動報告周知ちらしもご参照ください。 地域・連携の課題では、コロナ禍において、すべての機関が対応に苦慮した現状が伺え、可能であれば関係機関全体で振り返り、課題整理・対応方法の工夫等に繋げられるような機会を得たい、という意見がありました。その他、認知症の方に対する連携支援や関係機関の役割・機能周知の必要性について挙げております。 コロナ禍のため、従来通りの連携が制限されることもありますが、今までの顔の見える関係性を活かし、対象者への支援を積み上げつつ、お互いの役割や強みを理解して、継続的に連携を継続することが重要と考えています。 添付の医介連携インタビューのちらしは、こちらも医師会員向けに研究会周知を目的に、新たな切り口で作成・配付したものです。 多職種の視点の違いを知り、業務内容や役割、強みを互いが理解すること、そのうえで、円滑な連携と対応力の向上につなげることを目的に、今後も創意工夫を凝らし、取組を進めてまいります。引き続き、ご理解ご協力を何卒よろしくお願いいたします。
---------------------------	---

事務局司会	ありがとうございます。 各団体におかれましては、普段より多職種連携研究会にご協力くださいますようお願いいたします。 多職種連携研究会と地域課題について、ご意見等ございませんか。
枚方市医師会	多職種連携研究会の参加者が固定化していること、新規開業の医師などは地域包括支援センターの役割を知らないことが多いことが課題と感じています。 待合室懇談会は解決に向けた効果的な試みですので、より多くの診療所に参画いただけるよう、地域包括支援センターから声掛けしていただければと思います。
事務局司会	それでは、続きまして、案件4 参加者・団体からの報告・提案・要望事項等にうつります。 枚方市健康増進・介護予防担当より「枚方市高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」のご報告をお願いします。
健康増進・介護予防担当	案件4：その他、参加者・団体からの報告・提案・要望事項等 配布資料：資料④参加者・団体からのご報告・ご提案等 今年度より、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」を開始しておりますので、ご報告させていただきます。資料④のイメージ図をご覧ください。75歳に到達すると後期高齢者医療制度の被保険者に移るため、それまで加入していた医療保険制度の保健事業が継続されませんでした。また、75歳以上の後期高齢者医療広域連合と介護予防の実施主体（市町村）が異なり、健康状態や生活機能の課題に対して一体的に対応できていないという背景から、当事業が実施されることになりました。 当事業は、医療データ・健診データ・介護データを用いて地域の課題を抽出し、その課題に応じて保険事業を展開し、地域全体のコーディネートも行います。また企画・調整の医療専門職を配置し、データ分析から高齢者の健康課題を把握し、個別へのアプローチを実施します。介護予防にヘルスの視点が新たに加わります。 資料の裏面は、今年度の取り組み報告です。今年度は、モデル事業として第6圏域の地域包括支援センターにご協力いただき実施しました。主に3つの取り組みを行いました。1つ目は健康状態が不明な人へのアプローチ、2つ目は口腔機能低下ハイリスク者へのアプローチ、3つ目はフレイル予防に関する健康教室（ポピュレーションアプローチ）です。坂道が多く住民から運動器に関する相談が多い校区があることから、S小学校区を選定し実施しました。 令和4年度に関しては、健康状態が不明な人へのアプローチ（ハイリスクアプローチ）とポピュレーションアプローチはデータだけでなく質的な地域特性も踏まえてきめ細やかな事業展開ができるよう全圏域の地域包括支援センターに委託し、連携を図りながら実施します。口腔機能低下ハイリスク者へのアプ

	ローチは市内 13 圏域より 1 圏域を選定し、引き続き実施します。
事務局司会	ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問等はございますか。 ないようですので、続きまして、案件5 各機関における ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の取り組みにうつります。 配布資料⑤各機関における ACP の取り組みまとめをご覧ください。各機関の皆様にご協力いただき、事前の聞き取り用紙をもとに作成いたしました。誠にありがとうございました。 事務局より各機関の取り組みをご紹介後、ご出席者の皆様に補足説明をしていただいたり、意見交換等を行う予定としております。 それでは、枚方市 健康福祉総合相談担当より、ご紹介いたします。
健康福祉総合相談担当	案件5：各機関における ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の取り組み 配付資料：資料④各機関における ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の取り組みまとめ （資料④を一部読み上げ、各機関の取り組みを紹介）
事務局司会	ただ今の伝達内容について、補足のご説明やご質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。
枚方市訪問介護事業者会	エンディングノートや人生会議まるわかりガイドは、本当に必要と思われる方には、ポスター等による周知より、訪問したヘルパーから説明の上でお渡しするほうが効果的だと思います。 高齢世帯の火災報知器設置の周知について、消防組合より依頼を受けて枚方市訪問介護事業者会として協力し、必要な世帯には訪問したヘルパーから直接説明した実績があるので、同様に ACP の周知に関しても協力は可能と思います。
健康福祉総合相談担当	本当にありがとうございます。 事業者の皆様は、生活に密着した立場で利用者と接していただけることが強みですので、ご協力いただければ幸いです。
事務局司会	在宅医療・介護連携推進コーディネーターにお伺いします。多様な取り組みを行っておられるので、補足のご説明をお願いしてもよろしいでしょうか。

在宅医療・介護連携推進コーディネーター	ACPについて、必要な方へのアプローチを引き続き取り組んでいきたいところですが、利用者によっては死を連想させる話題を切り出しにくいと感じる場合があります。揺れ動く利用者の気持ちを汲み取った上で、適切に説明していくことは非常に難しいので、専門職として学びが必要だと実感しています。 市民向けの啓発に対しては、人生の節目の時にやる身近なものとして普及できれば良いと考えています。 いずれにせよ、倫理的な面を含むので難しいテーマです。各団体の研修会でACPをテーマに取り上げていけば良いのではないかと思います。
事務局司会	現時点では、興味をお持ちの市民にエンディングノートや人生会議まるわかりガイドを配布しているのが現状ですが、今後は興味はないが必要な層へのアプローチが必要です。枚方ソーシャルワーク研究会は、会員向けにACPの研修会を行っていただけるということですので、各団体取り組みを進めていただけたらと思います。 枚方ソーシャルワーク研究会より、補足説明をお願いします。
枚方ソーシャルワーク研究会	ソーシャルワーカーは、施設・医療機関・在宅部門など様々な機関に配置されています。既出のとおりACPはとても難しいテーマであり、迷いながらも意思決定を行う過程には、時間と対話が必要です。多忙な医師が対話を行うことは限界がありますので、ソーシャルワーカーが対話の間に入る形で協力が出来ると思います。
事務局司会	枚方市特別養護老人ホーム施設長会や、枚方市グループホーム連絡協議会は入所者への看取りケアを行ってられるとのこと、状況等をお伺いしてもよろしいでしょうか。
枚方市特別養護老人ホーム施設長会	特別養護老人ホームとしては、ACPの取り組みは看取りケアがそのひとつに該当すると思います。 入所されて初めて会うご家族へ最期のケアについてお伺いすることは、何年経っても難しいと感じています。ある程度は覚悟されているであろう特別養護老人ホーム入所者のご家族でさえ、最期の時には迷っておられるのが現状です。 勉強不足を実感しており、先日初めて施設で勉強会を実施しました。職員はもちろん、ご家族も含めて正しい知識を得る場を持つことが1つの課題と感じています。
枚方市グループホーム連絡協議会	グループホームは職員と入所者の距離が近いので、看取りに慣れていない職員や、看取りに尽力した職員のフォローが比較的大きな課題と感じています。 入所者のお葬式にも参加しますが、関係性が悪かったご家族が参列されて、「生前に会っておけばよかった」と後悔をしている方を見るので、入所の契約時に後悔のないようにしてほしいと何度も説明をしています。

	入所の契約時にはご家族がある程度覚悟をされているので、看取りの希望や医療行為の確認は比較的しやすいです。必ず家族内で話し合って決めるようにと説明しているので、実際に家族会議を行っていただけた方もいます。 医療に関しては医師が説明するとご家族が納得される場合が多いので、遺産相続についても説得力のある立場の方から説明できる環境があると良いと思います。
事務局司会	ありがとうございます。 他に何か意見がありますでしょうか？
枚方市デイサービス連絡協議会	既出のとおり ACP は切り出しにくい話題とのことですが、私には 10 年～20 年後には介護が必要になるだろう 60 代の両親がいますが、一番 ACP について提案しやすい時期ではないかと感じました。ACP の普及にあたって、まずは介護従事者としてではなく、一歩前の立場から導入できれば良いのではないかと思います。
枚方市医師会	ACP は医療・介護の現場で避けては通れないテーマです。当会議で年 1 回各団体の活動報告を行います。次のステップに進むために、地域ケア推進実務者連絡協議会の下にワーキンググループを組織するのはいかがでしょうか？年 3 回程度 ACP を通じて医療・介護間で話し合う勉強会を行い、そこで出た課題に応じて現在の取り組みの方向修正や、新たな啓発ツールなどを作成を行いたいと考えています。
事務局司会	この会議の場での回答は難しいかと思しますので、一度各所属に持ち帰り検討していただき、この活動にご参加いただける団体は、4 月 30 日までに当課ご返答いただく形でいかがでしょうか。主な活動は、各機関の状況・取り組みの実態把握、課題抽出となるかと考えております。ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。 最後に、事務連絡をさせていただきます。 お手元のメールアドレス確認表をご覧ください。 今後の事務連絡等に使用させていただくために、貴団体事務局等のメールアドレスをお伺いします。お帰りの際に事務局職員にお渡しいただくか、後日ご提出の場合は、4 月 22 日（金）までに、記載の連絡先まで返信いただきますようお願いいたします。 また、枚方市は全庁的に Web 会議ツールとして、Webex Meetings を採用しております。当課主催によるオンライン会議開催の場合、ダウンロード等をお願いするかもしれません。その際は改めてご依頼しますが、その際の資料として、本日、お手元の資料 Web 会議マニュアルをお持ち帰りください。お手数をおかけいたします。 それでは、これをもちまして、令和 3 年度地域ケア推進実務者連絡協議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

